

# 【今年の運氣】

## 令和7（2025）年 『乙<sup>(きのと)</sup>巳<sup>(み)</sup>二黒土星<sup>(じこく・どせい)</sup>』

（令和7年2月3日～令和8年2月3日の運氣）

### 『九星気学』とは

森羅万象(しんらばんしょう・この世のあらゆる現象)の営みは「陰陽と五行(木・火・土・金・水)」の作用によって構成されていることを究明し、それによって生じる現象を統計学的にまとめ上げた学問。「占い」とは一線を画します。その起源は5000年遡(さかのぼ)ります。

紀元前3000年頃、「自然万物は『陰陽』により成る」という哲学が、中国初の世襲王朝「夏(か)」で生まれ、『九星気学』の基礎が誕生しました。紀元前2100年頃になるとさらに発展し、多くの統計的知見を積み重ねて九星気学の理論が確立しました。その後、各王朝では「国を治める」手法として気学を用い、三国志の諸葛孔明(しょかつこうめい)などの軍師(ぐんし)は、いずれも『気学』に精通し、軍事または統治の手段として活用しました。

わが国には飛鳥時代、遣隋使(けんずい)・小野妹子(おののいもこ)が伝え、暦(よみ)を初めて用いたのは推古(すいこ)天皇です。聖徳太子も「気学陰陽」の理を大いに活用しました。室町時代、吉田兼俱(よしかかねとも)が神道の指導原理として『気学』を採り入れ、現在でも多くの神

天海(てんかい)上人(のちの慈眼大師)を通じて『九星気学』と出会い、自らの運勢のみならず政治・軍事に活用し、天下取り、幕府運営、江戸の町づくり(都市計画)に用いました。しかし極めて的中することから民間に広まることを恐れ、幕府内に留めて門外不出としました。明治になるとその禁が解かれ、世に広く知れ渡ることになりました。

立正佼成会の庭野日敬開祖は、法華経に結縁する以前にこの『九星気学』に出会い、研鑽を重ね、衆生救済の方途として『九星気学』を極めました。現在、立正佼成会ではこの『九星気学』を「時代予見」「動静掌握」「精進目標の設定」の補助的手段として用いており、菩薩行促進の一助として活用しています。

じっかん じゅうにし きゅうせい      きのと み じ こくどせい  
**十干・十二支・九星の意味 — 「乙・巳・二黒土星」**

「十干・十二支・九星」は、それぞれが『天の気』、『地の気』、『人の気』を表わします。

**十干**は『天の気』であり、『天の作用』を示します。『天の気・天の作用』とは「天が大地(地球)に及ぼす作用」で、主として形而上(けいじじょう・形を超越したもの、形に現れないもの)となつて現れる現象を表します。つまり、「**理性・精神**」を示します。天から示された「**理性・精神**」は大地に住む「**人々の心**」となり、民衆の「**世論**」に反映されます。**十干**が示す現象は「**気候・政治・思想・哲学・世論・風潮**」等となつて具体的に現れるとされます。

**十二支**は『地の気』であり、『地の作用』を表します。これは「天の作用を受けた大地が反応して、『地のはたらき』となつて現れるもの」で、主として形而下(けいじか・形に現れるもの、形になったもの)の現象、つまり「**物質**」として現われます。

一般的に十二支を「ネズミ・牛・トラ・ウサギ・・・」など動物に結びつけて理解していますが、本来の意味はこうした動物とは全く関係はありません。これはかつて庶民に十二支を浸透させるため、動物の名前を便宜(べんぎ)的に当てたに過ぎません。そもそも十二支は、「子(ね・種子)」から始まって「亥(い・核となって芯ができる)」に至る植物の発達段階を12区分して表したものです。ですから十二支の意味を「動物」に当てはめて説くことは気学的には邪説です。たとえば今年(乙未)は「巳(み)」の年なので「蛇のように後退せず前へ進んで行く～」等、蛇に当てはめて十二支を説くことは、気学とは全く無縁の俗説・迷信であると言えます。

そもそも十干と十二支の関係は「幹と枝」の関係といわれ、そのために「幹」と「枝」の文字にはそれぞれ「つくり」の部分に「干」「支」の文字が含まれています。つまり幹から枝が生まれ、伸びるように、十干(精神)を基として十二支(物質)が生まれ出されるとされます。

**十二支**は「**大地の作用**」を示し、それは「**経済・農作・水産・産業・物質・生理・肉体**」等となつて具体的に現われるとされています。

次に**九星**ですが、これは『人の気』であり、『人の作用』(人に対して及ぼす作用)を表します。したがって形而上(けいじ)・形而下(けいじか)いずれをも含むもの。つまり、人が生き抜くためのすべての作用を意味するもので、「**精神と物質・物心両面すべて**」の現象として現われます。具体的な現象としては、「**天候・政治・思想・世論・精神・風潮・経済・農作・水産・産業・物質・肉体**」(十干と十二支が示す作用のすべて)に反映するとされています。

『気学』では、「十干・十二支・九星」が相互に関連・作用して自然界は営まれていると説きます。したがって、その年の「十干・十二支・九星」の意義・意味を探究することによって、その年の事象・機運を具体的に予見することができます。

## 「乙(きのと)」の意味 《木性・陰性》

今年の『天の気』である十干は「乙(きのと)」です。

「乙」の字源は地中にある種子から出た芽が、地上に出ようとして地中で曲がりくねる状態を示しており、重い土を突き抜けて発芽して行くさまを表します。このことから「物事に突き当たり進まない。進みにくい」意味を具えます。さらには地上に顔を出した芽が外気に触れ、風雪の抵抗に遭い「屈曲しながら成長、紆余曲折する」様子も表します。これらのことから「軋(きしむ)・屈(かがまる)・低姿勢」の意味を持つこととなります。人が飛び上がろうとする時、一旦、身を屈ませます。その時の「低姿勢」を示すもので、次の飛躍のための「抵抗」です。進退窮まる意味ではありません。また「軋(きしむ)」のつくりの部分の「乚」は「乙」の変字です。

そのほか「乙(きのと)」には、「第二番・第二位・第二級・完成前・幼い・若い」の意味も持ちます。よく「優劣を付けることが難しい」という意味を「甲乙つけがたい」と表現をしますが、これは「甲」は第一位、「乙」が第二位と言う意味から生まれたものです。また「乙」の意味に「幼い・若い」があることから、「乙女・乙姫・乙子(おとご)」の語句が生まれました。一説には「乳」のつくりの部分である「乚」も「乙」の変字とされています。

## 「巳(み)」の意味 《火性・陰性》

『地の気』である十二の「巳(み)」ですが、原字は「頭と体ができかけた胎児」を描いた象形文字で、「子宮が胎児を包んでいるさま」を表します。「巳」には「包まれる・抱かれる」の意味を具えます。そのため、「包む・抱く」の文字には「巳」の類型が含まれています。また「巳」は「蛇がとぐろを巻き、冬眠から抜け出すさま」を表わし、「蛇」は「神聖なるも」ものとして崇(あが)め祀(まつ)ることから、「祀(まつ)」の文字にも「巳」が含まれています。「尊きものを敬う・祀る」の意味を「巳」は持ちます。また、「巳」は「巳(い)」に通じていて、「巳(い)」は「すでに・終わる・やむ・止まる・過ぎ去る」の意味ですから、「巳」にも、「止まる・やむ・すでに・終わる・定まる・成長が極まる・過ぎ去る・平らげる」の意味を具えます。

## 「二黒土星(じこくどせい)」の意味 《土性・陰性》

『人の気』である九星の「二黒土星」が持つ象意は、以下の通りです。

「大地・土・古い・古物・温故知新・過去を振り返る・農業・製造・生産・労働・雇用・育成・服従・従順・下位者・部下・営業・優しさ・無・無色・無差別・不在・共同・主婦・祖母・母親・妻・手技・手(右)・技術・テクニク・芸術・彫刻・栄養・消化器・胃・肥満・摂食・欲望・生活欲・勤労欲・生存欲・慈悲・慈愛・子育て・家族・家族愛・変化・別離」。これらのことが、今年は「気候・政治・思想・哲学・世論・風潮・経済・産業・農水・気候・肉体・生理・健康・保健」の事象、すなわち人間生活の全ての現象に現われるようになります。

## 《今年、運氣アップのために心がけたいこと》

本年、運氣に乗って自分自身が高まる「実践行」とは。（どれか一つでも、やってみよう！）

- ① 『まずは受け入れよう！「包み」にむような愛情をもって』  
（特に、目下の人を大切にしよう。人を育てよう）
- ② 『過去を引きずらない。終わったことをくよくよしない』  
（目の前の“今”を大切に、『真っ新たな』気持ちで）
- ③ 『壁にぶつかっても大丈夫。あきらめず努力しよう』  
（くじけず、あきらめなければ、必ず道は開かれる）
- ④ 『神仏に手を合わせよう』  
（『お願いごと』をするのではなく、『感謝』と『誓い』を唱えよう）

### ①『まずは受け入れよう！「包み」込むような愛情をもって』

（特に、目下の人を大切にしよう。人を育てよう）

面倒なことでも、まずは「受け入れる」「受容する」という姿勢でいると、運氣は追い風となってあなたを応援してくれます。「こんな忙しい時に！」と思う時でも、まずは「受け入れる・受容する」ということを心がけましょう。しかもそれが目下の人を育てる場面であればなおさらです。今年、下位者を育てる。人を育てることは大切な徳行です。今年の人材育成の実践行は、育てる相手だけでなく、あなた自身もまた大きく成長していくこととなります。しかもその育てた相手が、将来、あなたを支えてくれる大切な人となってくれます。

#### ※九星気学上の根拠——

- 今年の十二支「巳」が、「包む」という象意を具えている。
- 「人材育成」を象意とする「坤宮・こんきゅう二黒土星」が「暗剣殺」。今年、「人を育てる」という行為が難事となるため。中宮が「二黒土星」であるから「人を育てる」ことが大切だという意味ではない。
- 「施す・円満」を象意とする「乾宮・けんきゅう/六白」が「破壊殺」。「施すこと、円満になる」ことが難事の年。

### ②『過去を引きずらない。終わったことをくよくよしない』

（目の前の“今”を大切に、『真っ新たな』気持ちで）

今年は、「すでに終わったことへの関心」が強くなりがちで、“今”に向き合うことができにくいようです。良いこと（成功事例）でも、悪いこと（失敗事例）でも過去へのとらわれが強まり、目の前のことや、“今、この瞬間”を大切にしていけることが疎（おろそ）かになる傾向があります。

日本仏教史最高の名著と言われる『正法眼蔵』に、「而今・にん」という言葉があります。これは「今しか考えない。過去を振り返らず、未来を恐れず」という意味で、「今、生きるこの瞬間を大事にする」という仏教の大切な教えです。

また、原始経典の一つである『中部経典』に、「過去を追うな、未来を願うな。過去は過ぎ去ったのであり、未来はいまだ至っていない。現在の状況をそれぞれによく観察し、明らかに見よ。今なすべきことを努力してなせ」とありますが、“今”この瞬間を手を抜かずに生きて行くことの大事を釈尊は説いています。

過去にとらわれないことです。大切なことは“今”この瞬間を精一杯生きて行く。このことを自身の姿勢とすれば、追い風の運気に乗った充実した一年となるでしょう。

そして「過去にとらわれない。くよくよしない」で、今をしっかりと向き合っていく姿勢は、言い方を変えると、何事にも「真っ新(まっさら)な」気持ちで生きて行くことだと言えます。毎日を新鮮でイキイキとするためにも、この「真っ新(まっさら)な」気持ちを大切にしたいものです。

#### ※九星気学上の根拠——

- 「引き継ぐ」を象意とする「艮宮・ごんきゅう/八白」が「五黄殺」。終わったことを悪い意味で「引き継がない」ことが重要。
- 「過去」の象意を持つ「艮宮・ごんきゅう/八白」「坤宮・こんきゅう/二黒」が「五黄殺」と「暗剣殺」。過去にとらわれないことが重要になる。
- 「新しい・今」を象意とする「三碧木星」が「破壊殺」。“今”を真剣に向き合うことが大切になる。

### ③『壁にぶつかっても大丈夫。あきらめず努力しよう』

(くじけず、あきらめなければ、必ず道は開かれる)

今年は、一つひとつ着実に進んでいく力がはたらく年です。このような年に努力を惜しまないことが、運気の追い風を生むこととなります。今年、行く手を阻(はば)まれる。「壁」に突き当たると言うことを感じるようなようですが、そこでくじけず、あきらめないで努力していけば、必ず道は開け、目的に達することが出来ます。たとえ問題に直面しても、努力を一つひとつ積み重ねて行けば、問題克服ができることを忘れないでいたいと思います。

#### ※九星気学上の根拠——

- 「閉塞感・突き当たる」を象意とする「艮宮・ごんきゅう/八白」が「五黄殺」。「壁に突き当たる」を感じやすい年。
- 「突き当たる・屈曲しながら成長」の象意を持つ「乙・きのと」が、今年の「十干」。
- 「努力」を象意とする「坤宮・こんきゅう/二黒」が「暗剣殺」。“努力”することが重要になる。
- 「最高・高い目標」を象意とする「離宮・りきゅう/九紫」に、同じ「最高」の象意を持つ「六白金星」が廻座。

### ④『神仏に手を合わせよう』

(『お願いごと』をするのではなく、『感謝』と『誓い』を唱えよう)

今年は「敬神崇祖(けいしん すうそ/神を敬い、祖先をあがめる)」の姿勢が大切になります。この行ないが、自身の運気に追い風を及ぼすこととなります。

「神仏に手を合わせる」時、「お願いごと」をするのではなく、「感謝と誓いを申し上げる」ことがとても大事です。私たちが神仏に手を合わせる時、ともすると、「お願いごと」だけを言いがちです。そうではなく、「今朝もちゃんと目覚めることが出来た」「家族みんなが健康

でいれる」「今日も変わらず仕事ができる」等々、見過ごしがちな「当たり前の事」に「感謝の心」を寄せ、そのことを神仏に「感謝申し上げる」ことが大事です。お願いごとをする『請求書』を神様に届けるのではなく、「有難うございます」という『領収書』、もしくは「誓いの心」を記した『誓願書』を届けることが大事です。

#### ※九星気学上の根拠――

- 「祀(まつる)・敬う」の意味を持つ「巳・み」が、今年の十二支である。
- 「神仏・敬う」の象意を持つ「六白金星」が、同様の象意を持つ「離宮・りきゅう/九紫」の座位に廻座。
- 「神仏・高貴」の象意を具える「九紫火星」が、「発展・繁栄」を象意とする「震宮・しんきゅう/三碧」に廻座。
- 「先祖」の象意を持つ「艮宮・こんきゅう/八白」が五黄殺。「先祖を敬う」という行為が、今年なかなかできない。
- 「感謝」の象意を持つ「七赤金星」が、「陰・大本・根底」を象意とする「坎宮・かんきゅう/一白」に廻座。

## 『令和7年の展望』

(令和7年2月3日～令和8年2月3日の展望)

《政治》「政治」を司る十干「乙(きのと)」が、「突き当って進まない。屈曲しながら進む。軋(きいむ)という象意であるために、政権の施策立案・施行・国会運営は厳しいものがあるようです。政権維持も困難を極めるでしょう。「政治」の象意を持つ「乾宮・けんきゅう/六白」が、今年、破壊殺であることから、以上のことが指摘できます。

「巳」には、「第二番、第二位」という象意を具えるために、第一党が第二位へ転落という与党の下野も現実性を帯びます。石破茂首相(七赤・八白)の本命星が、今年、「最衰運」であるために、政府を襲う荒波を乗り越えていくことは、そう容易(たやす)いことではないようです。ただ昨年総裁選に出馬した小泉進次郎氏(一白・六白)、高市早苗氏(三碧・四緑)、河野太郎氏(二黒・九紫)、上川陽子氏(二黒・六白)、林芳正氏(四緑・六白)、茂木敏允氏(九紫・七赤)、加藤勝信氏(九紫・五黄)、小林鷹之氏(八白・二黒)の中で、今年、盛運期であるために活躍が期待されるのは、小泉進次郎氏、茂木敏允氏、加藤勝信氏、そして盛運期ではありませんが上川陽子氏です。これらの方々の動きが、政権浮揚に好影響を及ぼすかもしれません。

今年の政治課題は山積ですが、高齢者の介護、また人手不足による高齢者の雇用問題(定年の延長による高齢者の労働力確保)。その他、女性の就労環境の整備も求められます。慢性的な人手不足を解消する手立てとして、女性の離職率を如何に下げるか。出産や介護による女性の離職率を低下させる。これは喫緊の課題です。

その他、「防衛問題」が注目です。トランプ政権の再誕生で、米国の保護主義が再燃し、対米外交はこれまでの通りには行かなくなります。同盟国とはいえ厳しい要求が連射されます。特に日米安全保障条約の法解釈の見直し、日本の国防力増強の要求等があると思われます。隣国の軍事的脅威、そして台湾の有事も心配です。中台問題による台湾有事の危険度増は今年、心配です。もし実際に起きれば、日本も無関係ではありません。

《経 済》物価高も影響し、個人消費の落ち込みはなかなか解消できません。賃金は物価高を差し引いた実質賃金の大きな上昇はあまり期待できず、個人消費の落ち込みは、やはり人口減による個人消費の縮小も影響しています。内需拡大を大きく期待することができません。しかし一方では、インバウンドによる需要増の勢いもあり、若干、拡大増を図れるようです。ただし経済全般的には、低位安定成長の傾向です。金融緩和の見直しで金利はわずかながら上がりましたが、円安抑制には至っていません。今後利上げも検討、実施されると思いますが、今年も緩慢ながら円安傾向となります。ドル130円台は難しいようです。したがって輸入製品の高騰は解消されず、今年も物価高を覚悟しなければなりません。但し、海外投資家の勢いもあり、株価は上向き傾向を維持。九星気学の観点から数値を割り出すと、日経平均株価は4万4000円年内達成の可能性があります。夏以降の上昇が想定されますので、投機のタイミングは、年前半は乱高下を繰り返すものの、買いを中心に臨み、長期的に見据えて株価の変動に一喜一憂しないことが大切です。しかし、年後半は全般的に株価上昇傾向ですので、後半期に売りに転ずることが得策のようです。製造・食品・建設・金融・IT 関連銘柄の株価は特に乱高下するでしょう。一方、IT 関連のなかでAIに携わる企業の発展は目覚ましいものがあります。狙い目かもしれません。注目の賃上げですが、上昇するものの昨年を上回る上昇率は期待できないようです。連合の集計では、春闘賃上げ要求は23年3%台、昨年24年は5%台でしたが、本年賃上げ達成率は3.9~4.4%あたりだと思われれます。しかしこれでは、物価の高騰分を差し引いた「実質賃金」はマイナス基調に留まるでしょう。GDP実質成長率では、国民一人の名目GDPは韓国に抜かれ、先進国のなかでは低水準です。これも円安が大きく響いていると言えますが、国全体としては低成長ながらGDP実質成長率1.4~1.6%増は期待できるものと思います。

《社 会》やはり労働・雇用に関する問題が大きく横たわります。特に製造業、建設、土木、運輸、交通、サービス業関連、そして中小企業では深刻さを増します。こうした人手不足の悪条件が、かえってAI技術開発の推進を後押しすることになり、AI技術の発展は目覚ましいものがあります。完全失業率は大きく改善し、労働力の「売り手市場」となり、失業率は低水準です。こうした人手不足の解消は、《政治》の項でも述べていますが、高齢者の雇用問題(定年の延長による高齢者の労働力確保)。女性の就労環境の整備を真剣に着手することが肝心だと思います。今年二黒土星の運気はこれらの施策を実施しやすい年回りです。今年には土地関連、土地売買、土地開発、土木関連での不祥事、遅延、反対などの問題が発生、もしくは注目される事案が発生するようです。また記録の改ざん、不備、不正、隠蔽(いんべい)などの問題が露見します。特に注目されるのは、行政各省庁、とりわけ警察、税務署、司法(裁判所・検察・弁護士)、財務、農林、法務、厚労、文科、国土交通、防衛の各省庁での問題が心配です。またこれらの省庁に関連する企業、団体、マスコミ、宗教、芸能界でも同様の問題発覚、内部告発が話題になるようです。社会全体としては、女性の活躍、躍進が注目さ

れます。政界や法曹界、金融、医療(特に脳外科・心臓外科・外科等)などで、これまで女性の活躍が鈍かった各界で、女性の活躍がめざましいようです。その他、世間を大きく騒がせる女性に関する重大な事件、事故が発生するようです。火災については火事の多い年です。または大火災、山火事が心配です。火の取り扱いには要注意です。

《自然・天候・水産》心配なのは地震と火事です。今年は地殻変動が活発な年で、そのために震度6強クラスの地震発生が懸念されます。震度5弱・強クラスは多発するでしょう。また地震にともなう津波も心配です。あらかじめハザードマップや避難ルートの確認。家族や職場内での連絡手段の申し合わせの徹底等、災害に備えた準備を整えておきたいものです。その他、崖の崩落、土砂崩れ、そして雪崩など、山での自然災害には細心の警戒が必要です。火山の噴火も考えられます。休火山でも火山の登山には注意を要します。年間降水量は多く、水不足になることはないようです。去年は温暖化のために米、キャベツ、レタス等の不作。それによる価格高騰が私たちの生活を襲いましたが、今年は降水量は確保されるものの、キャベツ、レタス、トマト、カボチャ、豆類、ジャガイモ、そしてリンゴ、ミカン等の果実の収穫量は少ないようです。また赤潮の異常発生等で沿岸漁業に影響し、養殖魚類、アサリなどの貝類、ウニ、タコの漁獲に打撃を与える心配があります。

## 『生まれ年による今年の運氣』

※ 1月1日から2月3日生まれの人は、前年の生まれ年となります。

(例:昭和56年2月2日生まれ(56年生まれは**一白水星**ですが)

⇒前年の昭和55年生まれとみます。したがって**二黒土星**となります)

なお以下に記している運氣は、満10歳未満の人には作用しません。満10歳以上の人に影響する運氣です。

いっぽくすいせい  
《**一白水星**》 大正7、昭和2、11、20、29、38、47、56、平成2、11、20、(29)年生まれ

『**盛運・万事整う**』年。最高の運氣の年。「発展・充実」し、「人生とは、こんなに素晴らしいものか」を実感する年です。「運氣好調」な盛運年で、これまで計画していたことや希望の達成が可能です。自身の能力が十分に「発揮」でき、やりがいと達成感を感じ、モチベーションも上がります。このような年は「積極的」に行動することが大事。心身共にすこやかな一年です。しかも「信用・整う・交流」の気を受けているので、信用が高まり、「交渉事や縁談」がまとまり、特に「遠方の取引・交流」には素晴らしい成果が生まれます。「人脈・行動範囲」が広がります。注意点は諸事順調に進むため「自惚(りぬ)ぼれやすく・欲をかき・自分中心・有頂天・傲慢(ごうまん)」にならないことです。「謙虚」であることが肝心です。周囲に対する「感謝・配慮」を忘れず、「和」を重んじ、「親切」を尽くすことが「盛運の気」を保つことになり



ます。これを忘れると、「盛運の気」の年であっても、人生をつまづき、墓穴を掘ることになりかねません。今年積極的に「**施し・奉仕活動**」をするなど「**徳を積む・布施**」を行うことが大切です。諸事順調に進む年だからこそ、普段よりも大きな**徳分を積むチャンス**の年です。こうした好調の機運を受けている年に徳を積まない人は、植木に水を与えないようなもので、いずれドライフラワーの状態になってしまうでしょう。**今年の「布施・積徳の行ない」の功德は、生涯にわたる徳分となります。**また、今年体調を崩すと「長期化」する恐れがあります。早めの治療・手当を心がけましょう。盛運の年であっても「健康管理」には留意しなければなりません。さらに「**遅延・延期**」を経験します。しかし遅延・延期は悪い意味ばかりでなく、遅延したために助かるなど良い意味もあります。「**詐欺・詐称・交通事故**」には注意。

じこくどせい  
《**二黒土星**》大正6、昭和元、10、19、28、37、46、55、平成元、10、19、28年、(令和7)年生まれ

『**万事、これまでの己が現れる**』年。良くも悪くも過去9年間の総決算の年となります。今年一年、起こる現象は全て、これまでの自分の行いの「**現われ**」です。これまで誠実に努力してきた人には「**喜び**」が生じ、反対に努力を怠(おこた)り、また自己中心のだった人は「**厳しい現実**」をまのあたりにするでしょう。つい「**人のせい**」にしやすくなるため、「**人を責めない**」ことが大切。「**すべては自分**」と受け止め、悪い出来事は「**自身の学び・成長**」に生かし、反対に良い出来事は、それは周囲のお陰によるものだとして謙虚に「**感謝する**」姿勢が、今後の人生に大きく影響していきます。夏ごろまでは盛運期ですが、年後半は運気が下降します。今年好不調が入り交じり、物事が思うように進まず、「**八方ふさがり**」という「**閉塞感(へいそくかん)**」を感じる人が多いようです。「**浮き沈み・変化・波乱**」を受けやすい年だけに、精神的に「**山・谷のムラが生じ**」やすく、「**腐ったり・落ち込んだり・荒れたりする気持ち**」にならないよう「**心を安定させる**」ことが大切です。この「**心を安定させる**」特効薬は、「**感謝の心**」を持つことです。今年**中心的存在**になりやすいために、「**責任を持たされる**」「**他者の責任をとる**」ということを経験するでしょう。周囲との間で「**反発・争い・ぶつかる**」ことも起きやすく、そのためにも日頃から「**強引さを控え**」「**分をわきまえる**」という他者に心を配ることが大切になります。また「**古い問題**」の再燃、「**古い病気(持病)**」の再発の可能性があります。今年**新規事業**に着手する年ではありません。現状維持を心がけることが大事。「**内部、または身内より崩れる**」気を受けるので、「**足許(あしもと)を疎(おろそ)かにしない・足許(あしもと)の実践・基本信行**」をしっかりと務めること**必要**です。そうすれば運気を高めるだけではなく、ひいては今後9年間の大切な基礎を作ることになり、将来が開けて行きます。

さんべきもくせい  
《**三碧木星**》大正14、昭和9、18、27、36、45、54、63、平成9、18、27、(令和6)年生まれ

『**天佑(てんゆう・天の助け)**』を受け、これまでの努力の『**集大成**』の年。「**実りを実感**」します。今

年は「心身ともに充実する」ために「気力・活力も充分」に感じられます。そのために何事にも積極的に取り組みたい気分になります。しかしあくまでも今年は「まとめ上げる」年です。「未経験のことや新しいこと・新規事業」への新たなチャレンジは控えることが賢明です。あくまでもこれまで努力してきたことが「実る」という年です。一方、今年**「自分の考えは正しい」「最も優れている」と思い、他者からの助言を受け入れない傾向があります。**ともすると**他者が愚かに見えてしまうことにもなりかねません。**加えて「権威・権力」を主張しがちになるため、「自己主張・独善・自信過剰・傲慢(ごうまん)」が顔を出す心配があります。そうならないためにも、日頃から**「謙虚・感謝・和を大切にすること」**に務めれば、運気を安定させることが出来ます。このことを忘れると、本年は「対立」という気もある年であるため、「対立・係争・訴訟」の災禍を経験することになります。今年、「**神仏・先祖を敬う**」ことを努めれば、「天祐(てんゆう)」を受け、さらに運気は高まります。「**敬神崇祖(けいしん すうそ/神を敬い、祖先をあがめる)**」の姿勢です。そして「**両親・夫・年長者・上位者**」を深く敬うことが大切です。「**親孝行**」を尽くせば、自身の運気も高まって行きます。また「**善き師・人生の師**」、「**人生に好影響を与える師**」と出会えるでしょう。今年、「**昇進・昇級**」するか、「**上位者からの評価**」を得ることが出来ます。「**交通事故**」に注意の年。「**外科手術・体にメスを入れる**」経験をするかもしれません。「**投資・投機**」は可。ただし、「**こんなはずじゃなかった**」という想定外の出来事に遭遇することがあるでしょう。その時、腐ったり、不満を持つのではなく、「**これは自分が高まるための、神仏からの思し召し**」と受け止めて、自身を振り返り、自身の学びへとつなげていければ、大きな成長を果たすことができます。

しろくもくせい  
《四緑木星》大正13、昭和8、17、26、35、44、53、62、平成8、17、26、(令和5)年生まれ

『**収穫**』の年。これまで積み上げてきた努力の「**収穫**」を得る年です。今までの「**努力が認められ**」て喜びを覚えます。同じ「**よろこぶ**」でも「**楽しいから喜ぶ**」「**嬉しいから歓ぶ**」「**めでたいから慶ぶ**」という意味とは違い、本年は「**満足して悦ぶ**」年です。しかし今年大切なことは、100点満点の満足ではなく、80点で「**良し**」とする心が大切です。「**足るを知る**」、「**少欲知足・感謝**」の姿勢です。「**七、八分止まりで良し**」とし、「**欲をかき過ぎない**」ことが大事です。「**新規事業は控え**」ます。今年、「**驕(おごり)高ぶらず**」「**礼儀・礼節**」「**謙虚**」に努めることが求められます。注意したいのは自分が「**礼儀・礼節**」を重んじるために、ともすると他者の「**無礼・非礼**」を許せなくなることです。人の無礼に接しても、「**寛容・赦(ゆる)す**」ことが出来れば、運気は安定します。今年の運気は「**財運**」です。「**財運**」は安定します。今年「**収入増、金運に恵まれ**」ますが、一方では「**支出増**」もあります。特に「**交際費・遊興費**」等の支出増加の傾向がありますので、「**貯蓄・儉約**」に努めることが肝心です。とかく生活が「**派手**」になるため、「**自制心・強い心**」が求められます。今年「**舌禍・ことばによる災い**」の気を受けるため、「**軽はずみな失言・不用意なひと言・大言壮語**」に注意し、また第三者からの「**誘惑・甘**」

言・詐欺」にも要注意です。なお「投資・副業・趣味・習い事・稽古事」には成果があります。「交通事故・盗難・詐欺・刃物の取り扱い」には注意。「外科手術・体にメスを入れる」可能性があります。今年、最も大切な徳行は「施し」です。特に今年の財施の功德は例年よりも甚大で、人生に好影響を与える大徳となります。思い切った「財施」ができる年だと言えます。

こおうどせい  
《五黄土星》大正3、12、昭和7、16、25、34、43、52、61、平成7、16、25、(令和4)年生まれ

『変化・転換』と『継承・相続』の年。「大きな変化」を迎える年です。「改革・変化」の出来事が生じます。たとえ好ましくない「変化」でも、「自身の成長の糧」として活かしていく姿勢が大切です。希望しない変化に遭遇しても「腐る気持ち・気迷い」が生じないように心がけましょう。この「変化」の気は、むしろ「自分自身が変わる」ことが出来る「変化の気」でもあると言え、したがって今年、悪い習慣を改め、マンネリを打破する好機だといえます。また、自身が所属している組織・団体の「改革」に着手することができる年でもあります。しがらみや既成観念にとらわれず、迷うことなく「改革」に着手していきましょう。一方、本年は「継承・相続」の気を受ける年でもあり、地位、立場、思想、技能などで「何かを引き継ぐ」という経験をするでしょう。今年、「変化と継承」の両方を経験するのだと言えます。一方、今年、「行き詰まり・閉塞感・停滞感」を覚え、そのために「怠慢(たいまん)・怠け心」を生じることがあるようです。ですから今年、「一つひとつ努力を積み重ねる・蓄積する」という実直な姿勢が大事になります。「倦(う)まず弛(たゆ)まず努力を積み上げていく」という姿勢を保てば、運気は安定していきます。また、今年「別離」を経験します。この「別れ」は決して悲しい別れだけとは限りません。自身または身内の結婚・進学・就職・転勤なども「別れ」です。例えば結婚は親子の「別れ」でもあります。有徳であれば同じ「別れ」でも、「悲しい別れ」でなく「喜びの別れ」を経験するでしょう。ほかに「過去の行為の再評価・古い問題の再燃・既往症(古い病気・持病)の再発」と「不動産」に関する事象も生じます。今年、大切な徳行は「神仏と先祖を敬う・先祖供養」。「敬神崇祖(けいしん すうそ/神を敬い、祖先をあがめる)」の姿勢が大事な年です。神仏・先祖・両親・肉親・親族を疎(おろそ)かにせず、神仏を敬い、先祖に感謝することをつとめれば、悦び事が数多く生まれます。

ろっぽくきんせい  
《六白金星》大正11、昭和6、15、24、33、42、51、60、平成6、15、24、(令和3)年生まれ

『立志・誓願』の年。思考が冴(さ)え、自分のやるべきことが見え、「決意・志(こころざし)」を立てることが出来る年です。しかも人々の「注目」が集まり、周囲からの「評価」が高まります。「気力みなぎり、情熱」をもって何事にも臨むことができ、「飛躍」し、「名誉」を得て、脚光を浴びます。モチベーション上げ上げです！それだけに「自己顕示欲が強く・有頂天・傲慢(ごうまん)」になりやすい傾向も生じます。この点は要注意です。運気としては前半年上昇運、後半

年は下降運ですが、心配はいりません。「地道な努力」を惜しまない姿勢があれば大丈夫です。今年はスポットライトを浴びる年ですが、反面、何事も「白日に晒(さら)される」年でもあります。これまで努力し、陰徳を積んでいた人はその努力が顕彰・評価されます。しかし、そうでなかった人、自己中心的であった人は旧悪が露見するという可能性があります。これまで秘密にしていたこと、隠し事がバレるといふことがあるでしょう。また今年は精神的・知的向上を果たすことができ、自身の修養・学習の向上を図る最適の年です。その他、「別れ・背(そむ)く・対立」の気も受ける年であるため、「二心(ふたごころ)・気迷い・移り気」が生じやすい傾向にあります。一度、判断決定したことを後悔したり、ブレることがあるようです。また「訴訟・係争・争いごと」の暗示もあるため、平素から「驕(おご)らず・我意を張らず・和の心・謙虚さ」を保っていることが大事な年になります。大切なことは「感情的にならず・逆上しない・怒らない・冷静沈着」であることが、大事な心がまえとなります。今年は「天」を意味する座位に廻座するため、「神仏を敬う」こと。「神仏崇敬・先祖への感謝」が極めて大切になります。「敬神崇祖(けいしん すうそ/神を敬い、祖先をあがめる)」の姿勢です。このことに努めれば、さらに運気は向上します。その他、「契約や手続き・印鑑の取り扱い・火の取り扱い」に注意を必要とする暗示があります。「警察沙汰」の暗示もあります。特に「実印」を用いる契約は慎重に臨んでください。「学校・教育・官庁関係」の諸事を経験するでしょう。「投資・投機」は可。

しちせききんせい

《七赤金星》大正10、昭和5、14、23、32、41、50、59、平成5、14、23、(令和2)年生まれ

『内省』と『陰徳を積む』年。運気は最低。衰運の年であり、「万事ふさがる」ことを感じる一年です。いまひとつパワーが出ません。苦勞・悩み・困難多く、思い通りに物事が進みません。そのために「焦り」を感じる場合があります。しかし、「焦って」はいけません。焦って一発逆転や一攫(いっかく)千金を狙う行動はむしろ重大な失敗・苦勞を招きます。墓穴を掘ることになります。今年は人間関係・契約・交際に「欠落や衰退」が生じ、「底に突き落とされた」気持ち、「突き放された」気持ちになり、パワーの減退を感じます。しかし悲観することはありません。「厳しい冬」の後には必ず「春」が来るように、今年を正しく過ごすことによって、人生の「春」は必ずやって来ます。今年は、自分自身を「しっかりと振り返り」、「陰徳」を積む好機だと受け止めることが大事です。「私利私欲」に走れば必ず失敗します。結果が出ないからと言って焦らぬことです。「自分を滅し、他者に尽くす、奉仕に徹する」ことが大切になります。昔の言葉では「滅私奉公」の精神だと言えます。しかし今年は残念なことばかりではありません。今年は、水が大地に浸透するように、自身の努力・信条・誠意というものが、多くの人々の心に染み入って行くことができる年でもあります。自身の「信仰」が深まる年です。「誠意」をもって「コツコツと積み上げる」努力は、結果的には人々の心に染み入り、共感と信頼を生むことになります。今年は外に向かって積極的にはたらきかけをする年ではありません。心を外に向けるのではなく、むしろ自身の内側に向け、「内省・自身の魂を

**磨く絶好の年**だと位置付け、自身の内面的な成長に努めることが重要です。自身を見つめ、心を磨くことが大事です。「怒り・愚痴・不平不満」を口にせず、一日一日を「感謝」で送りましょう。そして、「**他者への奉仕・布施行・陰徳の行**」を実践して行くことができれば、それは、今年の衰運期を挽回する大事な徳行となります。この徳行は二年後にやって来る「盛運期」に大きな力となって、あなたを押し上げて行くこととなります。今年の金運は不調。また、「水難・秘密の漏えい」に注意の年です。「酒色」に溺(おぼ)れやすい可能性があります。今年手を染めた「異性問題」は必ず長期化するので要注意です。

はっばくどせい  
《八白土星》 大正9、昭和4、13、22、31、40、49、58、平成4、13、22、(31・令和元)年生まれ

『準備・基礎固め』と『育成』の年。次への発展に向けての「**基礎固め・力を養う**」年です。「**急がず・地道に努力**」する姿勢が大切です。成果を直ぐ求めるのではなく、あきらめず努力する姿勢を大事にしましょう。焦りは禁物。労を惜しまず忍耐と努力に徹することが今年なすべきことです。今年、「**行き詰まり、閉塞感**」を感じるがありますが、絶対に「途中で投げ出さず、投げやりにならない」ことが肝心。こうした努力する姿勢を身に付けることができれば、成果は今年に限ってのことではありません。今後、あなたの将来において、素晴らしい成果を得ることのできる「**自分づくり**」ができます。今年には未来に向けての「力」を養い、基礎固めをする年です。未経験なこと、未経験の分野での新規事業をチャレンジする年ではありません。年前半は、昨年の「衰運期」の影響が尾を引いていますが、後半(8月以降)からの運氣向上が約束されます。今年には「**従順**」という気が現われる年ですので、肩肘を張らず、素直に従うと言う姿勢を大切にしたいものです。そのため「**独断・強引・思いつき**」は厳禁です。「**調和・協調**」を務めれば運氣は高まります。また自身の環境・地位に「**変化・変動**」が生じる年です。その他、「**古い問題**」の再燃があります。その中には悪いことばかりだけではなく、「**過去の再評価**」。リバイバルで評価を得ると言うこともあります。また、健康面では「**古い病気(既往症)**」の再発の可能性があります。今年、「**勤労意欲**」は高まりますが、一方「**家庭の和**」を心がけることを忘れてはいけません。仕事優先のあまりに「**家庭を顧みない**」ことがないように注意し、「**家庭を大切に**」しましょう。また「**妻や母親**」そして「**婦人**」の助言に助けられます。素直に耳を傾けると、道が開けます。今年心がけたいことは「**無償の愛・慈悲・思いやり**」の姿勢です。男女を問わず「**慈母のごとき愛**」を貫く姿勢が開運のカギです。また**人を育てる「育成」の好機**の年でもあります。「人を育てる」ことに力点を置き、「**部下・後輩・下位者・子孫**」を大切にすれば、それはとりもなおさず自分自身を伸ばすこととなります。今年育てた人材は、将来のあなたの「**宝**」となります。また今年には暗剣殺にあたるので、他者からの「**衝突・言いがかり・身に覚えのない批判**」「**責任を取り、詰め腹を切らされる**」気を受けやすい年です。たとえそのような状態に遭遇しても、**腹をくくって迎えれば大丈夫**。年回りの「**気**」を受けて生じる出来事は、それが好まざることであっても、**腹をくくって受けて行け**

ば、時と共に去って行きます。「交通事故・突発事故」には注意をしましょう。

《<sup>きゅうし かせい</sup>九紫火星》 大正8、昭和3、12、21、30、39、48、57、平成3、12、21、(30)年生まれ

『黎明(れいめい)・発展・活動』の年。春の芽吹きのように気力・体力がみなぎり、日が昇るがごとく明るく開ける年。盛運の幕開けです。好調で「多忙」となり、「活気」に満ちた一年になるでしょう。目標達成に向かって大きく飛躍できます。何事も「実行・実践・行動」に移すことが大切です。「活動・発展・新規・成長・躍進」の気を受ける年ですので、今年**は「積極性」が求められます**。「躊躇(ちゆうちよ)・逡巡(しゆんじゆん)」したり、「怠惰(たいだ)・無気力」で行動に移さなかったり、動きを止めるようなことがあれば、それは折角の成長・発展の好機を逃すことになるので、とてももったいないこととなります。とにかく「実行・実践」あるのみです。座して傍観してはいけません。しかし好運氣、諸事順調であるため、ともすると「自信過剰・自惚(りぬぼ)れ・独断専行」に陥(おちい)りやすい落とし穴があります。この点、要注意です。「謙虚・和」を心がけ、軽率に行動せず、「落ち着いた冷静さ」を持つことが大切になります。「行動に移す」という積極性が必要ですが、ものごとに着手する時、ひと呼吸おいて周りの意見に耳を傾ける「素直さ」が大切です。また今年**は「甘言・誘惑」に注意**。自分を律する強い心が必要です。「好事魔多し」の格言を心することです。また良くも悪くも自分の「言葉」に力を持つ年なので「発言」には責任を持ちましょう。自分の発言が思わぬ影響力を持ち、広く他者に及ぼす年です。「軽率な言葉・失言・人を咎(とが)める・言葉で責める」ことがないよう戒めたいものです。今年、これまで隠していたことが「ハッキリと表面化」する年です。正しい行いをしていた人は「成果・評価」を得て「感動・感激」を覚えます。反対に自己中心的であった人は「旧悪露見」の年となり、「恐れ・後悔」を経験します。今年**は「震える」という気があるため、「歓喜・感動」で震えるか、「怒り・恐怖」で震えるかは、全ては自分の徳分次第**。これまでの自分の在り方が決めることです。また今年**は、「若者」に助けられることが多くあり、若者との交流を深めることで運気は高まります**。若い人たちとの関りを積極的に求めて行くことが望まれます。今年、「盗難・詐欺(振り込め詐欺等)」、また「火の取り扱い・電気・落雷」には要注意。

合掌

※ 以上の考察は、気学上想定できる傾向を示したもので、「運命論・決定論」ではありません。表現上、強調して「～です」「～となります」など断定的表現をしていますが、すべては「推測・推量」の域を超えるものではありません。ご参考になるかはいささか不確かですが、何がしかのお役に立つことがあれば幸いです。

皆さまの益々のご清祥心より念じつつ。

編者 九拜